

ウラン濃縮原型プラントの施設解体状況

令和3年4月から廃止措置に取り組んでいるウラン濃縮原型プラントの近況について報告いたします。

ウラン濃縮原型プラントでは、放射性物質（ウラン）を取り扱っていない機器の解体をスタートさせているほか、今後解体を行う放射性物質を取り扱う設備がある区域（「管理区域」といいます）の床面等に放射性物質が付着していないか念のため確認を行っています。



DOP-1 運転単位・高周波電源室の設備解体前（左）と解体撤去後（中）、盤内装品撤去の様子（右）

濃縮工学施設・部品検査室の漏電遮断器等の焦げ跡について

昨年11月29日、濃縮工学施設の部品検査室（管理区域）におきまして、漏電遮断器の差込口と、そこに差されていたテーブルタップ（延長ケーブル）のプラグに焦げ跡を発見し、消防署により火災と判断されました。施設や環境への影響はありませんでした（11月30日に新聞等で報道されています）。人形峠センターとしては、原因を究明し再発防止を図るとともに、今後も安全最優先で取り組みます。



漏電遮断器の差込口

新年ごあいさつ

皆さま、明けましておめでとうございます。
人形峠環境技術センター所長の木原でございます。
平素より当センターの業務につきまして、町民の皆さまには多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。



新型コロナウイルス感染症は未だ感染拡大に予断を許さない状況が続いております。少しでも早く以前の生活に戻れるよう、皆様とともにこの難局を乗り越えていきたいと思っております。

さて、令和3年は、人形峠環境技術センターにおきまして節目の年となりました。ウラン濃縮原型プラント（加工事業）の廃止措置計画が国から認可され、一部施設の解体作業を開始しました。一方で、上記のとおり漏電遮断器等の差込口に焦げ跡を生じており、ご心配をお掛けしております。

本年も安全を最優先に、情報の透明性をはかりつつ業務に取り組む所存です。本年もよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先：人形峠環境技術センター総務課
TEL.0868-44-2211（代表）
URL <https://www.jaea.go.jp/04/zningyo/>



人形峠環境技術センターからの お知らせ（vol.12） 【若手技術者・研究者の取り組み編】

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

いま、人形峠環境技術センターでどのような業務を行っているのか、よく分からないという声を聞きます。このため鏡野町さんのご協力をいただき、不定期ではありますが、「お知らせ」として事業所の状況をお伝えさせていただきます。

第12回目として、人形峠センターに勤務する若手技術者・研究者の取り組みについて、ご紹介いたします。



国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
核燃料・バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター

人形峠センターに勤務する若手技術者・研究者の活躍を紹介します

人形峠センターは、原子力施設（事業）の廃止措置や鉱山施設の閉山措置という大きな目標に向けて取り組んでいます。若手技術者・研究者が、どのような仕事に取り組んでいるのか、その一端をご紹介します。

保安・技術管理課 石田 毅 2019年（令和元年）入社

我が国が保有する核燃料物質は、国際原子力機関（IAEA）と我が国との協定及び国内法に基づき、平和の目的に限って利用されていることを国際的に示すことが必要です。このため、保有する核燃料物質が核兵器等に転用されていないことを担保する、検認活動（「保障措置」といいます）が行われています。

私の担当している保障措置業務は、定期、不定期に行われるIAEAと官庁による現地での検認活動（査察）への対応、施設や操業情報及び保有する核燃料物質の量を正確に管理し、IAEAへ報告するものです。

この業務を適切に行うことで、人形峠センターに対する国際的な信頼が得られることから、大変有意義であり、やりがいを感じています。

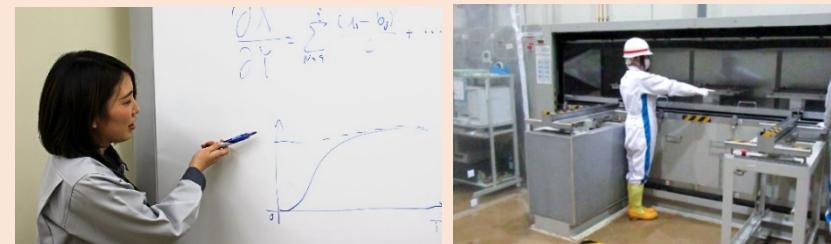


業務打合せの状況

廃止措置・技術開発部 廃止措置推進課 山根いくみ 2014年（平成26年）入社

ウラン濃縮技術の開発に使用していた遠心分離機に付着しているウランを取り除く（「除染」といいます）処理や、除染を終えた遠心分離機部品の放射能濃度の測定及び評価、使用する装置の維持管理を担当しています。

遠心分離機の中でも汚染が少ない部分は、除染が終わって国による確認を受けた後はクリアランス品として、再利用などが可能となります。私はこのクリアランスの制度を通して循環型社会形成に貢献することが、原子力事業者としての責務であると考えており、そのために必要不可欠な施設の廃止措置に係る技術開発に貢献していること、また、現在行っている業務が、世界のスタンダードになるかもしれないことにやりがいを感じながら日々の業務にまい進しています。



（左）課内会議で
（右）装置の安全ヨシ！

廃止措置・技術開発部 廃止措置推進課 澤山 兼吾 2020年（令和2年）入社

私の主な業務は設備に付着しているウランの除去等で発生する物質の分析業務や、過去の濃縮事業及び現在の施設解体で発生した廃棄物の処理に関する技術開発を行っています。

分析業務は、性質が異なる多種多様な測定対象物に対して、適切な分析装置の選定、分析操作を行うだけでなく、使用している装置のメンテナンスも行っています。また、共同研究に基づき、企業や海外機関からも土壌などの測定協力要請もあります。

技術開発ではウランの除去で発生する廃液やウランが付着した解体物等の処理・処分方法の検討も行っています。

ウランを含む放射性物質だけでなく、フッ素、硝酸等の廃棄物を、環境に影響を与えずに廃棄する技術などを、共同研究や機構内外から研究費を獲得し技術開発を行っています。



分析作業をしています

廃止措置・技術開発部 環境研究課 竹末 勘人 2019年（令和元年）入社

私は、ウラン廃棄物を安全かつ合理的に処分する技術を確認するため、ウランと環境をテーマとした環境研究を行っています。

自然界では、ごく微量のウランが地下水に溶け込んで、地下の花崗岩中の割れ目や堆積岩をゆっくりと移動しています。このような地下のウランの移動については詳細に分かっていない点もあるので、詳しく知るためにボーリング調査を行っています。

ボーリング調査では、特殊な水中カメラを用いた割れ目調査や、水の流れ方を精確に知るための試験を行っています。

また、鉱物を詳しく調べると、花崗岩の割れ目ができた時期や、当時の温度、岩石を割った圧力の様子などが推定できます。中国地方の花崗岩には、数千万年前以降の地殻変動の記録が割れ目や鉱物に残されているので、そのような記録を解読して、温泉湧出のメカニズムや土石流の発生との関係などについても明らかにしていきたいです。



鉱物を詳しく見るために研磨しています